

令和 5 年第 4 回 9 月定例会 9 月 7 日（木曜日）

◆ 28 番（藤本友行） （登壇）

【前段略】

令和 4 年度に生まれた 591 人の各小学校区の児童数から、令和 5 年度の各小学校児童数の一覧表です。令和 5 年度の 6 年生全員で 1,024 人が、11 年後の令和 4 年度の出生数は 591 人と、半減をしております。11 年で半分ですよ。驚きです。

令和 4 年度に生まれた各小学校区の児童数で、10 人以下となる小学校は 9 校もあります。令和 5 年度の旧市内 3 小学校の 6 年生合計で 95 人が、令和 4 年度の学校区では、生まれた子供は合計 25 人と、4 分の 1 になっています。本当にここまで少子化が進んでいることは驚きです。

6 年生の児童数 1,024 人ですが、11 年後の令和 4 年度の出生数は 591 人となり、22 年後の 346 人、33 年後の 199 人と減少していきます。学年で 10 人以下となる各小学校は、11 年ごとに、24 小学校中 2 校、9 校、13 校、19 校と進んでいきます。黄色は、10 人以下となる小学校です。黄色一色になっていくのが分かります。本当にびっくりする状態になるんです。

令和 5 年度の土堂小学校の 6 年生は 55 人で、令和 4 年度の学校区の出生数は 4 人で、現 6 年生の約 7 %です。出生数から見ても、相当無理な教育施策がなされたことが分かります。

久保、長江、土堂小学校合計で、令和 26 年度の出生数は 8 人と予測されます。本気で少子化対策を本年令和 5 年度から始めなければ、大変な状況になっていきます。

質問 1、出生時点の暫定学校区でよいので、小学校の学年で 10 人以下、中学校では 20 人以下となるのが分かった段階で、各地域に情報提供をしていく考えはありますか。

2、小学校の学年で 5 人以下、中学校で 10 人以下となるのが分かった段階で、統合を含めて学校及び地域の在り方をどうするかを地域と協議していく考えはありますか。

3、6 月議会の市長所信表明の中で、少子化対策のモデル都市を表明された立場から、本年令和 5 年度において一段と加速している少子化の現状を踏まえての施策をお示しください。

4、教育も大変換期にあり、未来を切り開いていく判断能力を身につけることが大切な時代と発言されている宮本教育長。児童数、生徒数が激減していくとき、成長時代の行動と思考のままでは問題解決はできません。減少時代は、今が十分だと、明日は無駄になります。だから、未来を予測する、分析することが大変重要になります。

旧市内 3 小学校、2 中学校のクラス数等はどの時点を基準とするのか、その理由についてもお答えください。

5、旧市内 3 小学校の入学児童数は、令和 11 年 25 人、令和 22 年 15 人、令和 33 年 8 人となります。旧市内 2 中学校の入学生徒数は、令和 17 年 54 人、令和 28 年 32

人、令和 39 年 18 人となります。30 年後の令和 39 年の入学児童数は 5 人、中学校は 18 人です。

20 年、30 年後の児童数、生徒数から考えれば、既存中学校を改修し、少子化をストップさせる子育てボーナスを最優先することだと考えますが、お答えください。

表 5 を出してください。

〔図表掲示〕

尾道市教育委員会の旧市内 3 小学校と 2 中学校の統合提案は A 案です。A 案は、小学校及び中学校ともに新築するものとして、事業費は 64 億円となっております。それに対して、B 案は、既存中学校を小・中学校に改修するものとし、事業費は 24 億円です。A 案及び B 案の差 40 億円を使って、B 案はボーナスを尾道市全体に提供する案です。

約 100 人の尾道市職員及び尾道市民の皆さんに聞き取り調査をしました。少子化が加速している尾道において、今やらなければならないのは少子化対策であり、市民全体で子育て支援をしていき、様々な子育てボーナスを提供することが一番だとの市民全員の意見でした。どうしても新築にすべきだとの意見はありませんでした。

今、学校統合、教育環境対策、少子化対策に加えて、地域コミュニティの強化策と、大きな課題があります。B 案は、この大きな四つの課題を、今できることを組み合わせることにより課題を解決しようとするものです。

教育環境、教員支援員を配置すること、年 7,000 万円で、10 年間で 7 億円。少子化対策として、給食を小・中学校無償、第 2 子以降にする 2 億円として、10 年間で 20 億円。新生児おむつ無償に 4,000 万円として、10 年間で 4 億円。地域コミュニティ強化策として、旧市内 3 小学校を（仮称）まちづくり子育てセンターに改修工事費として 6 億円。（仮称）まちづくり子育てセンターに支援員を配置して 3,000 万円として、10 年間で 3 億円で、合計 64 億円です。

地域の活性化のために、同じ小学校区に 3 世代が近居した家族には、給食費を第 1 子から無償となったらよいと考えます。まさに子育て罰社会から子育てボーナス社会へ変換することです。尾道市が全国の少子化対策のモデル都市となることも想像できます。

質問 6、既存 2 中学を改修する B 案と新築工事する A 案の差約 40 億円を使って B 案の子育てボーナス案を、昨年令和 4 年の 12 月議会に提案しています。9 か月間で、行政内部及び市民の皆さんの意見等をお聞きしたでしょうから、その意見及び検討結果をお答えください。

7、一つの問題を解決することも大切ですが、今できることを組み合わせて多くの課題を解決することを見つけ出すことは最も大切であると言われてしています。市長の 6 月議会の所信表明で、まち全体で子育てを支えるとした発言による子育てボーナスの新たな組合せをお答えください。

8、表 3、表 4、表 5 を見て感じるものは何でしょうか、お答えください。

○副議長（星野光男） 平谷市長。

◎市長（平谷祐宏） それでは、ただいまの御質問にお答え申し上げます。

少子化対策の施策についてでございますが、尾道版ネウボウである子育て世代包括支援センターぽかぽかが目指すワンストップで切れ目のない相談支援の取組、伴走型相談支援と経済的支援を一体的に実施する出産・子育て応援事業、満 1 歳までの赤ち

ゃんへのぽかぽかおむつ定期便事業、子供の医療費助成制度の拡大、子ども家庭総合支援拠点事業による要保護児童に対するきめ細やかな支援、子供の居場所づくりの推進、子どもの遊び場環境整備事業、子育て支援施設ＩＣＴ化推進事業、（仮称）北部認定こども園建設事業など、安心して子供を産み育てることができる支援体制の強化や子育て環境整備に努めております。

また、出会いの場の創出と交際、成婚までをフォローアップしていく尾道市マリッジサポートセンターの設置、子育て世帯等住宅取得支援事業、多世代同居等住宅取得支援事業など、結婚・子育て世代の定住策としての事業を実施しております。

子供たちが生き生きと育つ環境整備に向けては、夢と志を抱きグローバル社会を生き抜く子供の育成事業、教育政策推進のための基盤の整備、学校給食施設整備事業など、総合的に様々な事業を実施し、まち全体で子育てを支えていくことによって、少子化対策のモデル都市を目指しているところでございます。

少子化対策は、国を挙げて取り組むべき喫緊の課題であり、本市におきましても、国や県と連携しながら、引き続き事業の拡大や施策の充実について検討してまいります。

次に、子育て施策の検討についてでございますが、まち全体で子育てを支えるためには、子育て支援施策だけでなく、本市全体の施策を検討する上で子育て世帯を支える視点を持つことが重要であると考えており、本年度は新たに、ぽかぽかおむつ定期便事業や多世代同居等住宅取得支援事業などに取り組んでいるところでございます。

引き続き、子育て世帯を支えるための様々な課題に対応した施策について、他の施策との優先順位を勘案しながら、安心して子育てができる魅力あるまちづくりに資する事業の実施について、既存事業の見直しを含め、総合的に検討してまいります。

以上で市長答弁といたします。

○副議長（星野光男） 宮本教育長。

◎教育長（宮本佳宏） 教育委員会に関わる御質問には、私からお答えさせていただきます。

初めに、児童・生徒数の情報共有についてでございます。

これまで教育委員会では、子供たちの安全・安心の確保はもとより、教育環境の充実を目指し、適正な学校規模の確保を基本として小・中学校の再編を進めてまいりました。今後も、各小・中学校の適正な規模の確保について、児童・生徒数の推移等を注視し、複式学級が生じる見込みとなるなど必要な情報については、保護者や地域と情報を共有しながら適切に対応をしてまいります。

次に、統合する学校の学級数についてでございますが、統合小学校が通常学級 12 学級、統合中学校が通常学級 9 学級を予定しております。これは、令和 9 年度の新校舎使用開始時の児童・生徒数を基準としており、適正な教育環境を確保するために必要な学校整備を行うものでございます。

その後、児童・生徒数の減少が見込まれますが、特別支援学級の増加に対する対応や専科教室への転用等、児童・生徒の教育内容の充実に資するよう有効に活用してまいります。

次に、新築と大規模改修の差額を活用した子育て支援策についてでございますが、大規模改修案につきましては、私どもの試算では約 38 億円となっており、新築の約

64 億円に対し、一般財源での負担額の差は約 12 億円から約 15 億円程度と考えております。

これについて、少子化対策のソフト事業に充てるべきとの御意見についてでございますが、教育委員会といたしましては、これまでも議会の皆様の承認をいただきながら、よりよい教育環境と安全性を確保するため、小・中学校の建て替えを行ってまいりました。この再編に当たりまして、新しい教育に対応したよりよい教育環境の確保のため、これまで保護者や地域の方々へ説明してきたとおり建て替えをお願いするものでございます。

また、今後 20 年から 30 年後には、老朽化した施設の改修時期が一斉に到来することから、この再編統合の機会を捉えて新校舎を整備することで、事業費の平準化を図りたいと考えております。

次に、意見聴取についてでございますが、新築案と子育てボーナス案のどちらを選択するかといった聴取は行っておりません。しかしながら、これまでの説明会の中で、保護者や地域住民より、建築費用が高く、市財政に与える影響や他の施策への転用への意見もいただいております。このことから、事業費の圧縮を検討してまいります。

次に、学校の在り方についてでございます。

尾道市立小学校の児童数は減少傾向にあり、令和 11 年度には入学者が 591 人と、本年度の入学者と比べ約 3 割の減少となることが見込まれております。そのため、今後は、市内全体の児童・生徒数の推移や学校施設の老朽化、保護者、地域の声等を踏まえ、充実した教育環境を目指した学校の在り方について検討していく必要があると考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

○副議長（星野光男） 28 番、藤本議員。

◆28 番（藤本友行） そういう真摯な態度を、3 小学校統合、2 中学校統合に早くから生かせばよかったんですよ。あなたたちは言葉で言うけど、実態は行動しないでしょう。それが駄目だと言うんですよ。答弁では言うけど、実行をしないでしょ。どうなんですか。

○副議長（星野光男） 川鰐教育総務部長。

◎教育総務部長（川鰐雄一） 3 小学校 2 中学校の再編統合問題でございます。

これまで、耐震化の議論から始まって、小学校の統合、そして仮設への転居、さらには中学校を含めた 2 中学校区での再編統合案を提案してまいりました。非常に長い時間がかかったということは、我々教育委員会としても反省をしているところでございます。

今後は、やはり子供たちの命を守る、長い仮設校舎での生活の負担感を一刻も早く解消するという意味で、令和 7 年の再編、令和 9 年度新校舎建設、これに向かって議案を提案させていただいておるというところでございます。

以上でございます。

○副議長（星野光男） 28 番、藤本議員。

◆28 番（藤本友行） 議員の意見とか市民の意見を聞こうとしないでしょう、あなたたちは。

私は、今のあなたらの提案は平成 30 年にしとるんですよ。五、六年たつとるじゃないですか。おかしいでしょ、あなたらのやり方っていうのが、まず。市民の声、議員の声を聞けば、こんなにごたごたすることはなかったんですよ。聞かないから。決めて聞かない、決めるのに他の意見を聞かない、そういう姿勢でしょう、市長を先頭に。それだから駄目なんですよ。こじれるんですよ。自分らの案は持つとっても、意見を聞いて、最終的に整理して提案すればいいんですよ。聞かないから、うまくいかんですよ、そりゃあ。

ちょっと答弁の聞き漏れしたんですけど、令和 9 年度の小学校のクラス数は。特別教室はいいよ、普通教室ね。

○副議長（星野光男） 川鰭教育総務部長。

◎教育総務部長（川鰭雄一） はい。統合小学校でございますが、通常学級 12 学級、統合中学校は通常学級 9 学級を予定しております。

以上でございます。

○副議長（星野光男） 28 番、藤本議員。

◆28 番（藤本友行） 統合小学校 12 学級ですか。間違いでしょう。

○副議長（星野光男） 川鰭教育総務部長。

◎教育総務部長（川鰭雄一） 昨年 11 月 22 日に御提案を差し上げた数字でございます。

以上でございます。

○副議長（星野光男） 28 番、藤本議員。

◆28 番（藤本友行） じゃあ、令和 9 年度開校する教室、1 学年、2 学年、3 学年、4 学年、5 学年、6 学年、何クラスあるのですか。小学校ね。

○副議長（星野光男） 川鰭教育総務部長。

◎教育総務部長（川鰭雄一） 小学校でございますが、各学年 2 クラスの 12 クラスでございます。

○副議長（星野光男） 28 番、藤本議員。

◆28 番（藤本友行） あなたらから頂いた資料で、そういう……じゃあ学年の人数を教えてください。

○副議長（星野光男） 川鰭教育総務部長。

◎教育総務部長（川鰭雄一） 令和 9 年度で、新設の 3 小学校の人数でございますが、1 年生 40 人、2 年生 36 人、3 年生 36 人、4 年生 45 人、5 年生 46 人、6 年生 40 人でございます。

以上でございます。

○副議長（星野光男） 28 番、藤本議員。

◆28 番（藤本友行） 違う資料を渡しちゃいけないわね。あなたたちから頂いた資料に基づいて質問をしてるんですよ。1 年生 36 人、2 年 34 人、3 年 30 人、4 年 40 人、5 年 52 人、6 年 48 人でしょ。違う。何で 1 年生が、それは学校選択制の数を入れてるのですか、入れてないのですか。

○副議長（星野光男） 川鰭教育総務部長。

◎教育総務部長（川鰭雄一） 我々の今の数字は、当初の 64 億円の学校施設の案を出した令和 4 年 11 月 22 日の案に基づいておりますんで、令和 4 年 5 月 1 日の基準に基づいて児童数をお示ししております。

○副議長（星野光男） 28 番、藤本議員。

◆28 番（藤本友行） 合うと違うととってここで言っても始まんけえね。でも、7 月 5 日時点のあなたたちから頂いた資料に基づいて私は質問してるんですよ。そういう違う資料を渡しちゃいけないわな。マジシャンじゃないんだから。いけんでしょう、そういうやり方っていうのは。

それはいいんですわ。ほんなら、それはそれでいいでしょうよ。ほんなら、3 年、6 年後はクラス数はどうなるんですか。お答えください。

○副議長（星野光男） 川鰭教育総務部長。

◎教育総務部長（川鰭雄一） すいません、失礼いたしました。令和 7 年で申しますと、3 小学校統合で 304 名、令和 10 年で申しますと 230 名というふうな数字でございます。

○副議長（星野光男） 28 番、藤本議員。

◆28 番（藤本友行） 令和 9 年から開校するんでしょう。令和 9 年から言わんと意味ないじゃないの。令和 7 年から言うてどうするんね。

○副議長（星野光男） 川鰭教育総務部長。

◎教育総務部長（川鰭雄一） 失礼いたしました。令和 9 年度新設統合時におきましては総数 247 人、令和 10 年度でいいますと 230 人、ここが告示した数字になるかと思います。

以上でございます。

○副議長（星野光男） 28 番、藤本議員。

◆28 番（藤本友行） いや、クラス数を聞いてんのよ、全体の。お答えください。令和 12 年、令和 15 年ね。

○副議長（星野光男） 川鰭教育総務部長。

◎教育総務部長（川鰭雄一） 令和 9 年度は、各学年 2 クラスの、12 クラスでございます。令和 10 年度でございますが、小学校 1 年生が 1 クラス、ほか 2 クラスですんで、合計 11 クラスを予定しております。

以上でございます。

○副議長（星野光男） 28 番、藤本議員。

◆28 番（藤本友行） 質問するに当たって、私は 3 か月間、時間をかけてやってるわけ。あなたらは半日で答弁を書きようるんかもわからんけどね。そのデータをきっちと整理して渡してくれないと、同じ土俵で質問、答弁できんでしょう。

令和 12 年に 6 クラスしかないんですよ。各学年 1 クラス。当然、6 年後も 6 クラスですわ。ということは、6 クラス、6 年間で、あるいは 3 年間で、未使用の教室が生まれるということなんです。その辺の計画をきっちと立てずに建設計画をするから、でたらめになるんですよ。何できっちと整理せんかねえ、あなたらは。あなたらのお金じゃないからそうするのですか。答弁ください。

○副議長（星野光男） 川鰭教育総務部長。

◎教育総務部長（川鰭雄一） まず、学校の新設、令和 9 年度でございます。基準としては、令和 9 年度の児童・生徒数が基準となりますので、これは今後、今の令和 4 年 11 月 22 日に提案をした数字に基づいて算出をしておりますが、新たにこれを実際建設、これから基本・実施設計に移っていきます。その段階で、また最新の数字、また見込みを持ちながら、これについては精査をしてまいります。また、新たな減少等

が見込まれる中で、特別支援学級が増加している傾向であるとか、いわゆる専科教室への転用、こういったところも含めて、そこへいわゆる無駄な教室が増えないようにきちっと工夫をしながら、学校建設に向かって精査をしていきたいと考えております。

以上でございます。

○副議長（星野光男） 28 番、藤本議員。

◆28 番（藤本友行） 6 年たつと、6 クラスね。6 クラスというたら 9 億円かかるんですよ、建設費用。中学まで寄せたら、この倍ですよ。そのぐらいの金額を、6 年間の中で 18 億円無駄な投資をするということになるんですよ。いや、それでもするんだというしっかりした根拠を持って提案しないと。そんな提案ありますか、世の中に。6 年で使われない教室が 12 クラスあるんですよ。そんな投資するんですか、本当に。

聞きます。耐震化している長江中学校及び耐震補強が完了している久保中学校を、改修しない現在の状態のままで統合小学校及び統合中学校に使用することは可能ですか、お答えください。

○副議長（星野光男） 川鰐教育総務部長。

◎教育総務部長（川鰐雄一） まず、中学校のほうでございますが、昭和 37 年、昭和 38 年建設ということで、60 年を過ぎております。やはりこの状態、さらには久保中学校の場合、北側の校舎棟については非常にコンクリート状態が悪いという数字も出ておりますので、やはりこれを機に新設、いわゆる新たに校舎を新設するという選択のほうが妥当であろうという判断をさせていただきました。また、長江中学校の校舎についてでございますが、こちらに対しては 40 年余りということになっております。

そのような中で、小学校ということであればグラウンドの基準面積が狭くて足りるということもございますので、グラウンド側に小学校の施設及びグラウンドを整備できるというスペースでございますので、ダウンサイジングした形の小学校を建設をする、東側の現校舎については地域のため等に利用ができるという利点もございますので、そちらのほうを利点もあるということで考えております。

以上でございます。

○副議長（星野光男） 28 番、藤本議員。

◆28 番（藤本友行） 今、兼用で使つとるでしょう、小・中、既存の学校を。使えるじゃない。使えるか使えんかを聞きようるんですよ。あとの理屈を聞きようるんじゃないんですよ。使えるんか使えないんか。

○副議長（星野光男） 川鰐教育総務部長。

◎教育総務部長（川鰐雄一） 今、久保中学校、長江の中学校校舎について、小学校が併設というか、同居という言い方がいいかどうか分かりませんが、しております。両方とも仮設校舎であるという状態でございます。これを早期に解決をしていかなきゃいけない、解消していかなきゃいけないという中で考えたときに、現校舎だけでは十分ではないというふうに判断をしております。

○副議長（星野光男） 28 番、藤本議員。

◆28 番（藤本友行） いや、使えるか使えんかということを聞いてるわけであって、あなたの論理を聞いてるわけじゃないのよ。使えるのか使えないのかということを聞いてるんですよ。

○副議長（星野光男） 川鰭教育総務部長。

◎教育総務部長（川鰭雄一） 久保中学校であれば 60 年を経過しているということ
で、このまま使っていても、近い将来は何らかの手当てが必要になるという状況で
ございます。

以上でございます。

○副議長（星野光男） 28 番、藤本議員。

◆28 番（藤本友行） 教育長、使えるんか使えんか聞きようるわけですよ。部長の
考え方を聞いてるわけじゃないの。お答えください。

○副議長（星野光男） 川鰭教育総務部長。

◎教育総務部長（川鰭雄一） 教育委員会といたしましては、両校舎ともこのまま、
子供たちの適切な教育環境の確保という観点、子供たちの安心・安全という観点から
すれば、この機を捉えて新設をするということを選択をしております。

以上でございます。

○副議長（星野光男） 28 番、藤本議員。

◆28 番（藤本友行） 今使えようのに、使えんという理屈は成り立たんではし
ょう。将来は使えなくなるということを聞いてんじゃないんですよ。今使ようんだか
ら使えるでしょというのを聞いてるわけ。

○副議長（星野光男） 川鰭教育総務部長。

◎教育総務部長（川鰭雄一） 今、確かに使用はしておりますが、両方とも仮設校舎
を併設した上で使用しているという状況でございますし、近い将来、必ず何らかの手
を入れなきゃいけないという時期が来ますということをお伝えをしております。

以上でございます。

○副議長（星野光男） 28 番、藤本議員。

◆28 番（藤本友行） いや、何でもそうやない、そりゃあ。古くなったら改修した
り修理したりせんといけんでしょう。それは当たり前のことじゃないですか。そんな
こと聞いてないでしょう。今使ってるんだから使えるでしょということを聞いた
りだけであって、使えるの、使えないの。同じ論議するわけ、何回も。

まあいいわ。

使えるんですよ。そしたら、64 億円子育てボーナス、あるいは今多くの人が求めて
るしまなみ海道の料金の軽減に使やあいいじゃないですか、64 億円。そういうことだ
って可能でしょ。可能性としてのことを聞いてんですよ。

64 億円の 2 校新築工事費に対して、2 校既存中学校の改修工事費は 38 億円だとあ
なたらは答弁されてますね。改修工事費、今分かったように、0 円でもいいんです
よ、使えるんだから。私が提案している 24 億円でもいいんですよ。あなたらが提案し
てる 38 億円でもいいんですよ。逆に言うたら、改修工事に 64 億円使ってもいいんで
す。間違っていないんですよ、それはどういう数字も。

しかし、改修に対する工事費は新築工事費の半額以下までとするのが通常の常識な
んですよ。しかも、20 年たったら全ての小・中学校の見直しをせんといけんでしょ。
そしたら、64 億円かけて、使えない学校が出るかもわからんじゃない。そういうこと
だってあるでしょう。あなたらも私もいないけど、でも建物は現存として残っていく
んですよ。

だから、様々な角度から検討がなされないままの皆さんの提案だと言っとるんですよ。縦の情報だけで提案している行動を直さなければ、人口だけでなく全てが縮小していく社会では今までのやり方は通用しないんですよ、教育長、あなたが言うように。でも、現実としては、考えずに提案するんですよ。言うこととやることがマッチングしてないんですよ。分かりますか。

しかも、64 億円よ。私たちが一生かかってももらえない金額ですよ。3 年、6 年たったら、18 億円は投資したけど使われない教室が出てくるんですよ。考えたことありますか、あなたらは。

自分たちの提案を正当化することは分かりますが、世の中の常識まで無視して答弁してはいけません。あるいは、提案してはいけません。全ての答弁が信用されなくなり、その結果、我々二元代表制で来てる議会を無視したことになるんですよ。しかも、民主主義のルールを逸脱したことになるんですよ。あなたらがやってることは逸脱してるんですよ、民主主義を。分かりますか。

教育長、今までの意見を聞いて、あなたは思うのですか。言うことは、あなた、正しいのよ。行動はどうなんかなということですよ。お答えください。

○副議長（星野光男） 宮本教育長。

◎教育長（宮本佳宏） 今、いろんな角度からいろいろ御意見をいただいております、私も考えるところはいろいろあるわけですが、まずその一つは、この少子化の時代を踏まえて、市内全体の学校の再編といいますか、在り方については、これはしっかりと課題意識を持って取り組んでいかなきゃいけないということを思っているわけでございます。

そして、久保・長江中学校区の再編に係る新設の小学校、新設の中学校の建築費というものは市民の皆様の大切なお金でございますので、有効に活用させていただくことは当然のことでございますので、やはり今後、この建築費の圧縮、事業費の圧縮を考えなきゃいけないですし、また空き教室が出るという御指摘、ここについても、どういった形でそれを有効利用していくのか、あるいは設計のときにどういう工夫をして、空き教室ができるということも踏まえながら、どういう設計をすると事業費の圧縮にさらにつながっていくのか。普通の教室を造っていくともちろん空き教室ができるわけですから、そういった形以外にどういうやり方があるのか。例えば、仕切りをうまく動かせるようにするとか何か工夫をして、新しい教育に向けての工夫、そういったスペースができるような、そういった設計ができないのかとか、今、私個人でいろいろお話を聞きながら、今までと同じような考えでこの校舎を仮に新築したとして、それは確かに大切なお金を有効に活用したことにはなりませんので、様々な知恵をいただきながら、ここはしっかり考えなきゃいけないなという、そういったことを考えているところでございます。

以上でございます。

○副議長（星野光男） 28 番、藤本議員。

◆28 番（藤本友行） 表 4 を出してくれますか。

〔図表掲示〕

あなたらが一番不足してるのは、将来の入学者数を想定してないということですよ、一番は。想定したら、3 年、6 年で、小学校は学年 1 クラス、中学校は 2 クラスですよ。6 年もたたんのにそうなるということを想定せずに計画するわけ。してるわ

け、現実にね。それはもう一回見直さんといけんのんじゃないの。令和９年から開校しなくても、令和７年、令和８年でできるでしょ、既存の中学校を使えば。

質問を終わります。（拍手）

〔28 番藤本友行議員 質問席を退席〕

○副議長（星野光男） お諮りいたします。

本日の会議はこの程度にとどめ、残余の質問については、明日午前 10 時開議してこれを行いたいと思います。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○副議長（星野光男） 御異議なしと認め、そのように取り計らいます。

本日はこれをもって延会いたします。